

令和1年10月2日

報道機関 各位

**全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎
を有する妊娠女性の現状と課題が明らかに
～厚生労働研究班による初めての全国実態調査～**

【概要】

全身性エリテマトーデス（SLE）（注1）、関節リウマチ（RA）（注2）、クローン病（CD）（注3）、潰瘍性大腸炎（UC）（注4）は生殖可能年齢（15歳～45歳）にある女性患者が多い自己免疫性疾患です。近年の治療法の進歩により、罹患女性からの出産が増加していますが、その実態は知られていませんでした。

附属病院産科婦人科 津田さやか助教、齋藤 滋 富山大学長、疫学・健康政策学講座 関根道和教授ら厚生労働研究班（代表：齋藤 滋 富山大学長）（注5）のグループは、これらの疾患を合併した分娩について、初の全国調査を行いました。その結果、計画的妊娠が50%に留まる一方、SLE、RA、UCでは不妊治療による妊娠が高率であることが初めて明らかになりました。SLEでは早産や妊娠高血圧症候群といった妊娠合併症の頻度が高く、病状が安定しない時期の妊娠がリスクを高めることが判明しました。CDとUCでは、低出生体重児を出産する頻度が高くなりますが、妊娠中に母体の体重が増加するほどリスクが低下していました。

本研究成果により、ライフプランを立てるための妊娠前カウンセリングや、関係する診療科の医師の連携が重要であることが明らかとなりました。これらの疾患を有する妊娠可能年齢の女性に対する診療の改善に繋がることが期待されます。

この研究発表は、令和1年9月24日に日本リウマチ学会学術誌「Modern Rheumatology」にオンライン掲載されました。

※研究の詳細は別紙を参照してください。

【本件に関する問い合わせ先】

国立大学法人富山大学長 齋藤 滋
〒930-8555 富山県富山市五福 3190
電話：076-445-6004、6000
FAX：076-445-6006

【研究の概要】

近年、炎症性サイトカインに対する抗 TNF 抗体製剤をはじめとした生物学的製剤の登場により自己免疫性疾患を寛解に導くことが可能となり、罹患女性からの出生が増加しています。代表的な自己免疫性疾患として、関節リウマチ (RA)、全身性エリテマトーデス (SLE)、クローン病 (CD)、潰瘍性大腸炎 (UC) がありますが、いずれも生殖可能年齢にある女性患者が多い疾患です。本邦では、約 17.5 万人の RA 女性、約 2 万 4 千人の潰瘍性大腸炎女性、約 4500 人のクローン病女性が妊娠可能年齢にあると推計されていますが、これらの疾患を合併した妊娠の本邦における実態はほとんど知られていませんでした。本研究では、全国周産期医療 (MFICU) 連絡協議会参加施設に調査票を送付して、2015 年から 2016 年の 2 年間における SLE、RA、CD、UC 合併妊娠の全国調査を行い、妊娠女性の背景、妊娠時の合併症や病状の変化、診療における問題点を初めて明らかにしました。

【研究成果のポイント】

1. 計画的妊娠は 50%以下に留まる一方、SLE、RA、UC では不妊治療による妊娠が一般人口より高率でした。(図 1)
2. SLE は妊娠中に病状が悪化するリスクが、他の 3 疾患より高いことが判明しました。
3. SLE・RA・CD・UC いずれも一般人口より妊娠合併症の頻度が高いこと、疾患によりリスクの高い合併症が異なることが判明しました。(図 2)
4. SLE では母体年齢、腎臓の病変があること、妊娠中に疾患の活動性があることが妊娠合併症のリスクを高めるため、病状が安定した状態を維持することが重要と考えられました。
5. CD と UC では、妊娠中の体重増加が妊娠合併症のリスクを低下させました。妊娠中の食事の管理が合併症の減少につながる可能性があります。

【今後の展望】

母児のリスクを高める可能性がある非計画的妊娠を減らすとともに、加齢に伴う妊娠利率の低下や妊娠リスクの上昇を考慮に入れたライフプランを立てるため、産婦人科医の立場からの妊娠前カウンセリングの実施が望まれます。

妊娠前・妊娠中の病状のコントロールが、妊娠合併症にも関わってくるため、疾患毎の主治医と産婦人科医が緊密に連携をとることが重要と考えられました。

妊娠前から産婦人科医と各診療科の医師が連携して自己免疫性疾患罹患女性に対する診療にあたるシステムの構築が、安全な妊娠・出産につながると考えられます。



図1

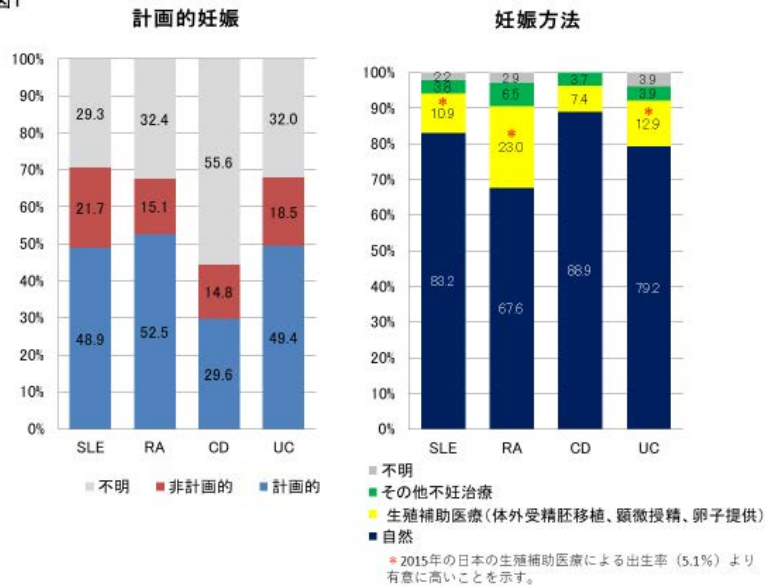
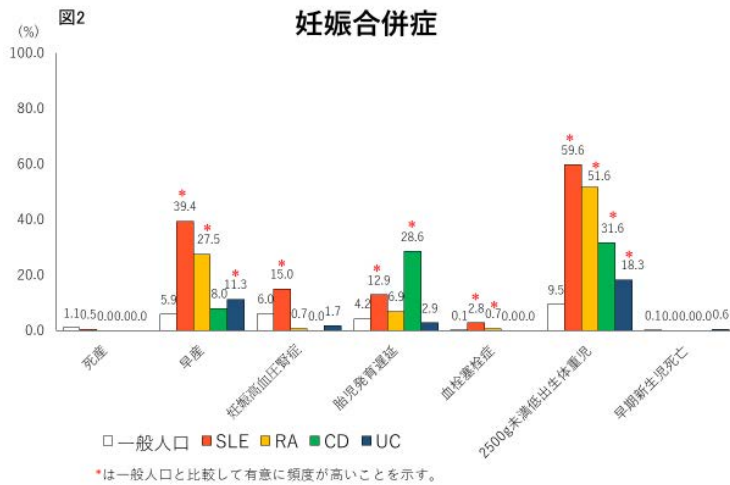


図2





論文タイトル：

Pre-conception status, obstetric outcome and use of medications during pregnancy of systemic lupus erythematosus (SLE), rheumatoid arthritis (RA) and inflammatory bowel disease (IBD) in Japan: Multi-center retrospective descriptive study

著者：

Sayaka Tsuda, Azusa Sameshima, Michikazu Sekine, Haruna Kawaguchi,
Daisuke Fujita, Shintaro Makino, Akio Morinobu, Yohko Murakawa, Kiyoshi
Matsui, Takao Sugiyama, Mamoru Watanabe, Yasuo Suzuki, Masakazu
Nagahori, Atsuko Murashima, Tatsuya Atsumi, Kenji Oku, Nobuaki Mitsuda,
Syuji Takei, Takako Miyamae, Naoto Takahashi, Ken Nakajima, Shigeru
Saito

雑誌名：

Modern Rheumatology

(注1) 全身性エリテマトーデス：全身の免疫系の異常により、発熱などの全身の炎症症状、関節・皮膚・肺・中枢神経などの内臓の症状が生じます。(指定難病)

(注2) 関節リウマチ：免疫の異常により関節に炎症が起こり、関節の腫れ、痛み、変形などが起こる疾患です。

(注3) クロウン病：口腔内、大腸、小腸、肛門の粘膜に慢性の炎症や潰瘍が生じ、腹痛や下痢、血便などの症状が起こる疾患です。(指定難病)

(注4) 潰瘍性大腸炎：大腸の粘膜に炎症を生じ、びらんや潰瘍ができる。下血、下痢、腹痛などの症状が起こる疾患です。(指定難病)

(注5) 厚生労働研究班難治性疾患等政策研究事業「関節リウマチ(RA)や炎症性腸疾患(IBD)罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針の作成」(代表：齋藤滋 富山大学長)：自己免疫性疾患罹患女性の妊娠・出産を見据え、各科が連携し診療を行うための指針作成を目的として平成28年～平成29年度に活動を行いました。産婦人科、疾患毎の専門科、薬剤師、統計学専門家の知見を集約し、関係各学会の承認を経て、平成30年3月に医師向け・患者向け治療指針(<https://ra-ibd-sle-pregnancy.org/>からダウンロード可能)を発刊しました。